

「私たちの住む町」を知ることから始まる
地球温暖化対策

NPO法人 地域環境ネットワーク

特定非営利活動法人 地域環境ネットワーク

〒870-0901 大分県大分市西新地 1-3-5 サンビル 1F
http://homepage3.nifty.com/npolen/info.htm

小・中学生を対象に、地域密着をテーマとして環境問題をより身近に感じることのできる冊子の作成と、温暖化防止のための実践を促進する学習方法の確立を目指す。(発展助成)

子どもたちに伝えたい。
私たちの住む町、環境のこと



授業では実験道具を使い、
発電の仕組みを体感

大分県東端の漁師町にある大分市立佐賀関小学校。教室に入ると30人ほどの5年生が紙芝居に見入っています。「温暖化を防ぐにはみんなの力が必
要なんだ」——大分の昔話で有名な「きつちよむさん」が名産品のミカンやアオヤギを助
けようと呼びかけます。上演し

ているのは地域環境ネットワークの桑野恭子さん。「環境についての冊子はいろいろとあります。でも、自分の住む地域と結びつけて環境のことを子どもたちにもっと知ってほしいと思ったのが活動のきっかけです」。

この出前授業は、地域環境ネットワークが作成するテキスト「エコちよる2009 おおいた地球温暖化対策ハンドブック」をもとに行われたもの。これは、大分県温暖化防止活動推進センターなどで得たネットワークを生かして、大分県近隣の農業・林業・電力などの専門家とともに作成されました。

紙芝居に続いて、電気と温暖化の仕組みを実験道具を使って解説するのは、テキストの執筆にも携わる九州電力OBの村瀬正信さん。子どもたちはモーターを力いっぱい手で回し、豆電球を灯しています。「電気を

八丁原(はっちょうばる) 発電所

大分県九重町にある九州電力株式会社八丁原発電所(右)は、日本最大の地熱発電所です。地下のマグマで熱せられた地下水(蒸気や熱水)を取り出し、タービンを回して発電します。



大分県では、火山地形を生かした地熱発電が盛ん。地域環境ネットワークが作成するテキストでも紹介されている

つくるのは、けっこう疲れるんだね」。村瀬さんは節電の大切さと、家庭でもすぐにできる節電の方法を伝えました。授業を受けたある生徒は、「地球温暖化のことは詳しく知りませんが、これからこまめに電気を消したり、コンセントを抜いたりします」と、早速教わったことを実行する様子。授業を見学していた藤野久光校長も「漁師の家の子は、温暖化で海の水温が上がっていると聞いた話を家庭で聞いています。今日の授業

で、温暖化が自分たちと無関係でないことをより実感したことでしょう」と話します。このような授業をモデルケースとして、子どもたち目線の環境教育を地域に根付かせることを地域環境ネットワークは目指しています。「大分は漁業のほか林業や農業も盛んですし、日本最大の地熱発電所もあるんですよ。豊かな自然や資源に恵まれています。この環境を子どもたちにこれからも伝えていきたいです」(桑野さん)